

令和7年度 飲酒取消講習受講者における アルコール関連問題に関する調査

—結果概要—



独立行政法人国立病院機構

久里浜医療センター

古賀佳樹，柴崎萌未，柴山笑凜，新田千枝，
伊藤満，福岡紘子，遠山朋海，松下幸生

運転と飲酒習慣についてのアンケート

- 目的： 飲酒運転をした者における、飲酒行動や飲酒の問題の実態を把握する
- 調査対象： 飲酒取消講習を受講した18歳以上の者
 - 警察庁と協議の上、全国の飲酒取消講習を実施している全ての公安委員会および、指定講習機関に対して調査の協力を依頼
 - 同意の得られた191施設にて調査を実施
- 調査手法： 講習機関職員から受講者に調査案内および調査票を配布
 - 講習の初めに案内を行った
 - 回答方法は郵送 or Web回答
- 配布・回収時期： 令和7年6月10日～12月31日
- 有効回答数： 1,037票

アンケート内容（調査項目）

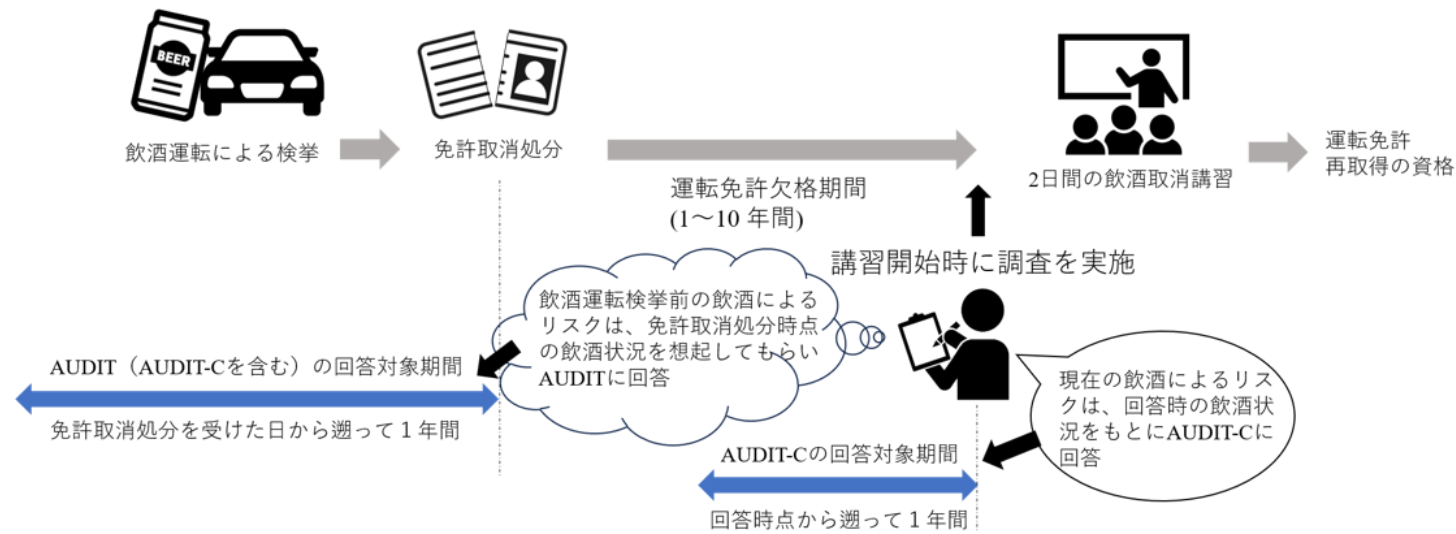
- 基本情報（性別、年齢、婚姻状況など）
- フラッシングの有無
- 飲酒関連の受診経験、受診希望の意思
- 飲酒運転の知識（アルコールが抜ける時間）
- 飲酒運転の予防策

【現在（回答時点）の情報】

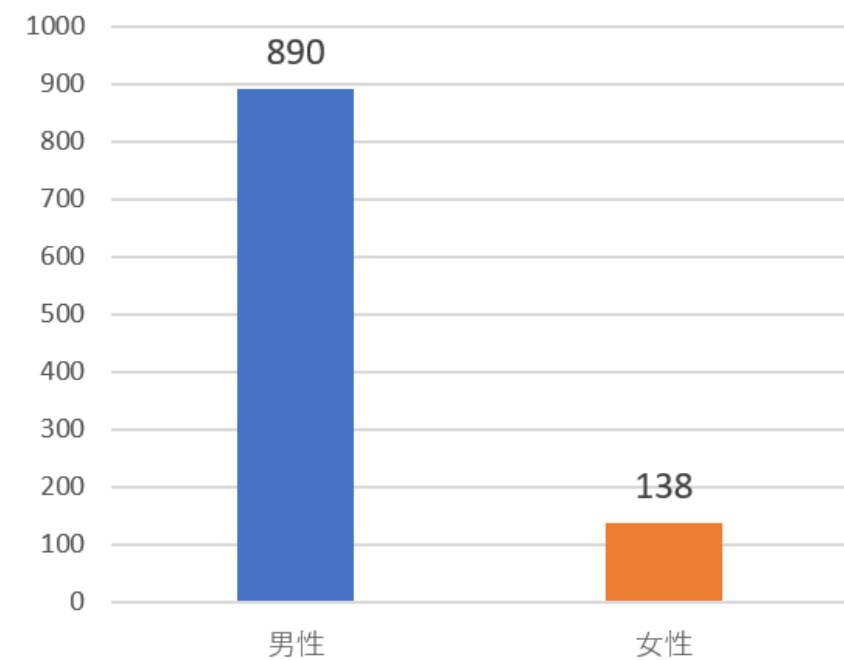
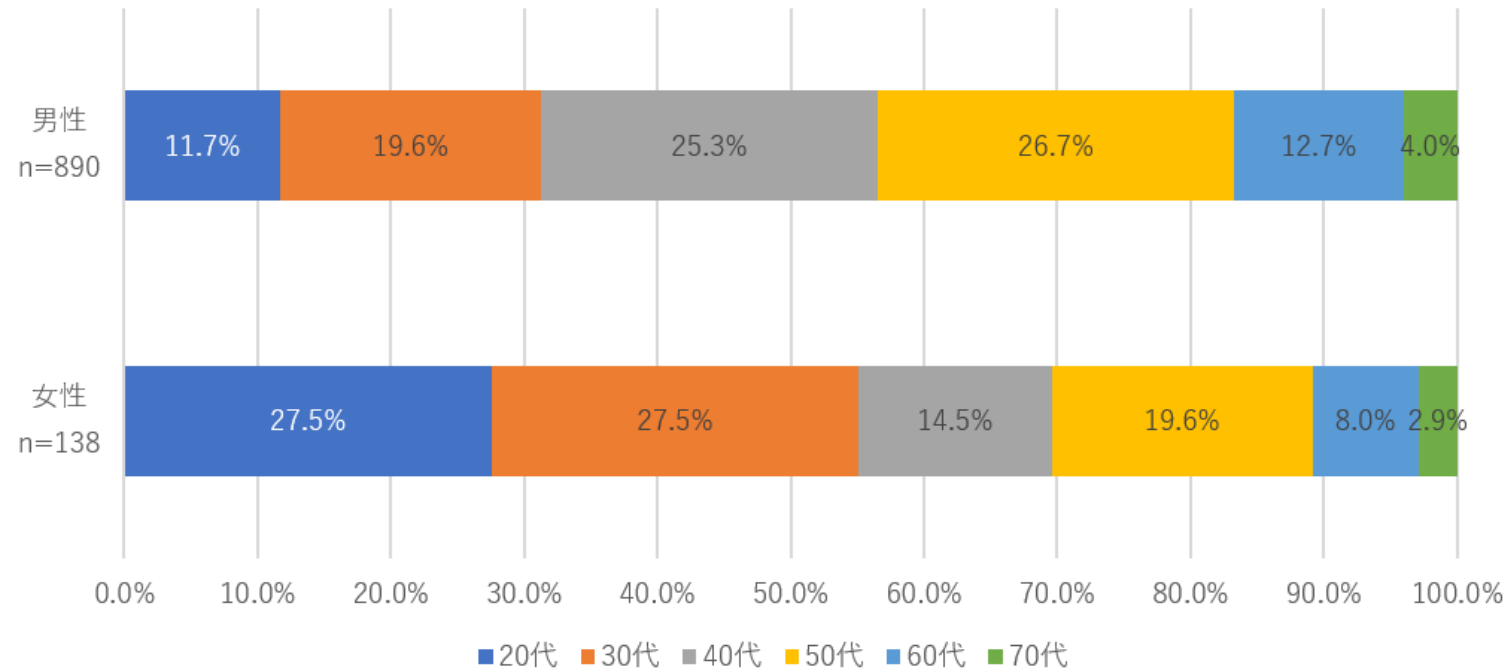
- 飲酒経験
- リスクのある飲酒（AUDIT-C）

【飲酒免許取消前の情報】

- 運転情報（頻度、目的、距離）
- 飲酒運転経験（検挙回数、飲酒運転頻度、検挙後の変化、など）
- 飲酒経験
- リスクのある飲酒（AUDIT-C）
- アルコール使用障害（AUDIT、DSM基準の項目）
- 飲酒動機（DMQ-R）



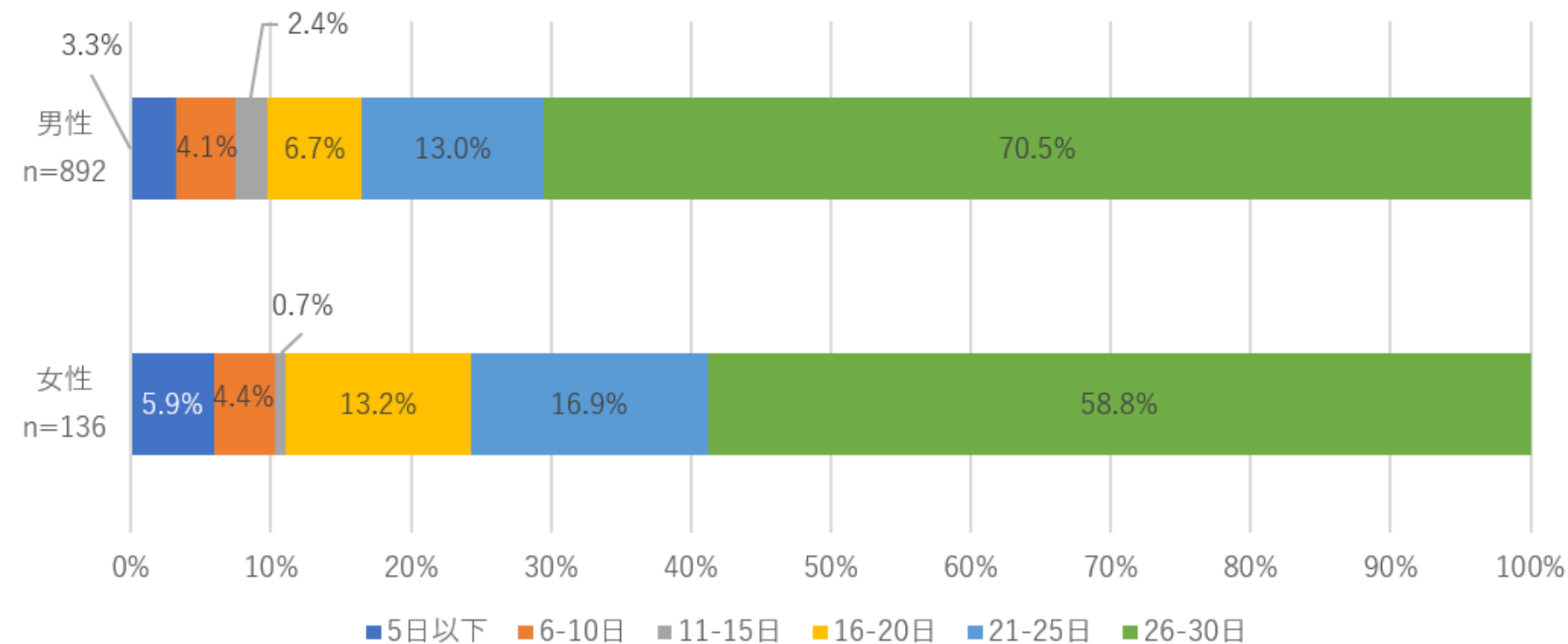
集計結果：性別・年齢分布



※年齢無回答者9名は集計から除外した。

集計結果：運転免許取消処分前1ヵ月間の運転

◆運転頻度◆



※運転頻度無回答者9名は集計から除外した。

◆運転の主な目的◆

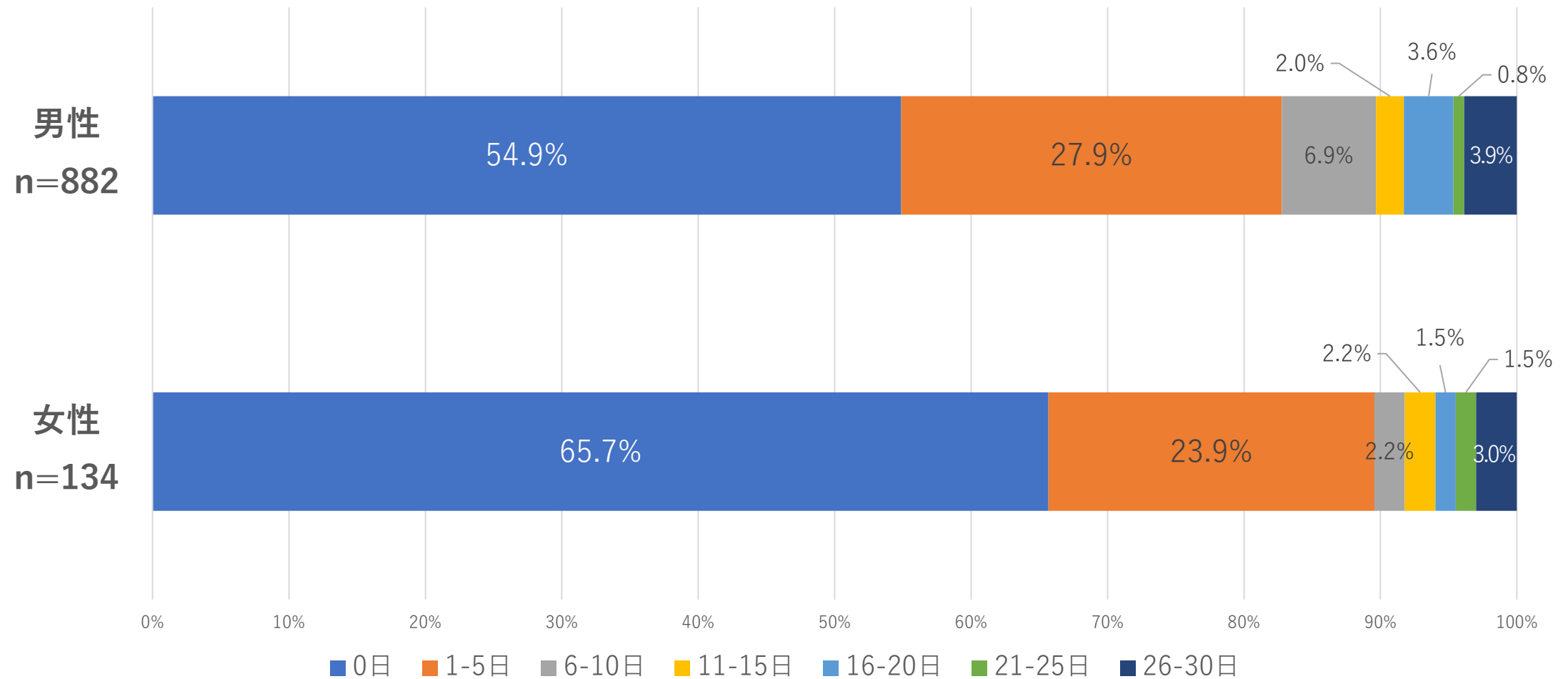
【男性】

- ・仕事の目的：85.5%
- ・個人的な目的：13.9%
- ・その他：0.7%

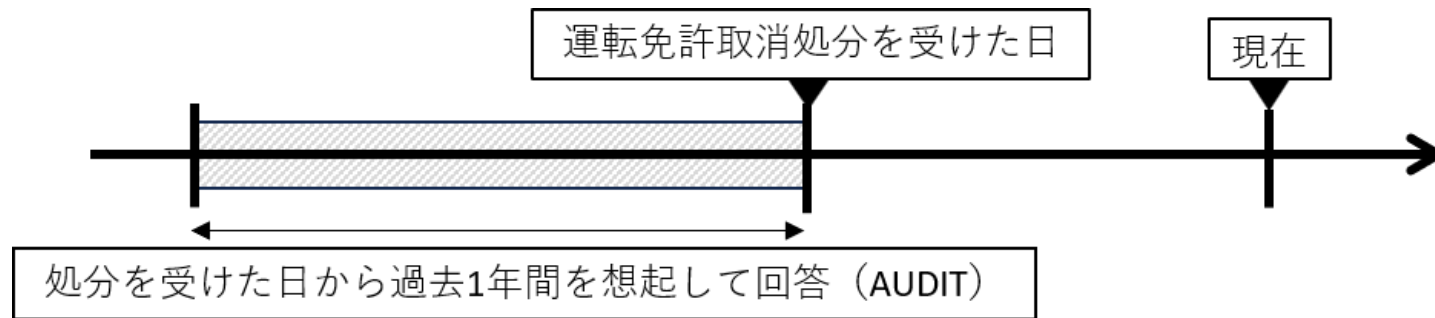
【女性】

- ・仕事の目的：67.4%
- ・個人的な目的：31.1%
- ・その他：1.5%

集計結果：運転免許取消処分前1ヵ月間の飲酒運転の頻度



集計結果：アルコール使用障害が疑われる者の割合 (運転免許取消処分前時点のAUDIT得点を基に算出)



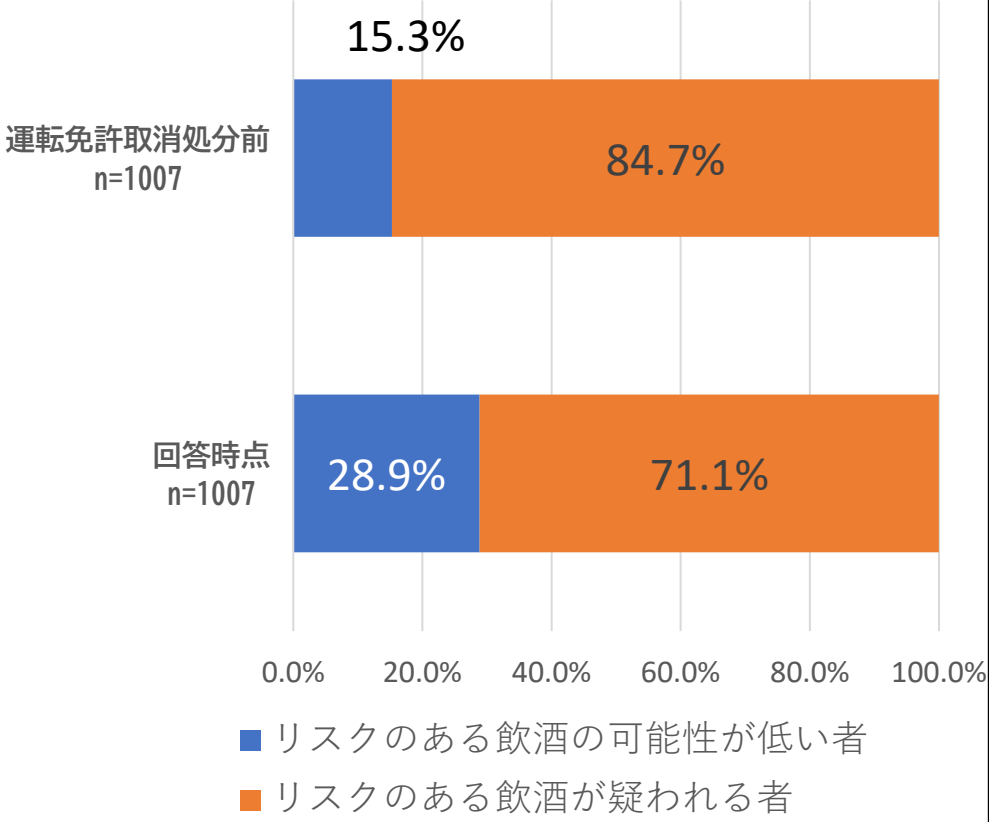
前回調査（中山他, 2008）における割合と概ね同程度の割合でした。
(男性： $\chi^2(1) = 1.527$, ns, $\phi = 0.033$ 、
女性： $\chi^2(1) = 0.024$, ns, $\phi = 0.013$)

	非飲酒者・低リスク 飲酒者(0-7点)	高リスク飲酒者(8-14点)	アルコール使用障害が 疑われる者(15点以上)	合計
男性	171 (19.6%)	322 (36.8%)	381 (43.6%)	874 (100.0%)
女性	25 (18.9%)	54 (40.9%)	53 (40.2%)	132 (100.0%)
合計	196 (19.5%)	376 (37.4%)	434 (43.1%)	1006 (100.0%)

※AUDIT全項目中1つ以上無回答だった31名は集計から除外した。

集計結果：リスクのある飲酒が疑われる者の変化 (2時点におけるAUDIT-C得点を基に算出)

◆全体◆



◆男性◆

		運転免許取消処分前のAUDIT-C得点		
		リスクのある飲酒の可能性が低い者	リスクのある飲酒が疑われる者	合計
回答時点のAUDIT-C得点	リスクのある飲酒の可能性が低い者	103 74.1%	159 21.6%	262 29.9%
	リスクのある飲酒が疑われる者	36 25.9%	578 78.4%	614 70.1%
	合計	139 100.0% (15.9%)	737 100.0% (84.1%)	876 100.0% (100.0%)

◆女性◆

		運転免許取消処分前のAUDIT-C得点		
		リスクのある飲酒の可能性が低い者	リスクのある飲酒が疑われる者	合計
回答時点のAUDIT-C得点	リスクのある飲酒の可能性が低い者	11 73.3%	18 15.5%	29 22.1%
	リスクのある飲酒が疑われる者	4 26.7%	98 84.5%	102 77.9%
	合計	15 100.0% (11.5%)	116 100.0% (88.5%)	131 100.0% (100.0%)

集計結果：治療経験と治療意向について

◆治療経験の有無（生涯）◆

治療経験の有無	非飲酒者・低リスク 飲酒者(0-7点)	高リスク飲酒者(8-14点)	アルコール使用障害が 疑われる者(15点以上)	合計
ある	8 (4.2%)	22 (6.0%)	86 (20.2%)	116 (11.8%)
ない	180 (95.2%)	346 (93.8%)	331 (77.9%)	857 (87.2%)
わからない	1 (0.5%)	1 (0.3%)	8 (1.9%)	10 (1.0%)
合計	189 (100.0%)	369 (100.0%)	425 (100.0%)	983 (100.0%)

※AUDIT全項目中1つ以上無回答だった者および治療経験に無回答だった者、計54名は集計から除外した。

◆治療意向の有無（現在）◆

治療意向の有無	非飲酒者・低リスク 飲酒者(0-7点)	高リスク飲酒者(8-14点)	アルコール使用障害が 疑われる者(15点以上)	合計
はい	13 (6.7%)	38 (10.1%)	99 (23.1%)	150 (15.0%)
いいえ	165 (84.6%)	299 (79.7%)	279 (65.0%)	743 (74.4%)
わからない	17 (8.7%)	38 (10.1%)	51 (11.9%)	106 (10.6%)
合計	195 (100.0%)	375 (100.0%)	429 (100.0%)	999 (100.0%)

※AUDIT全項目中1つ以上無回答だった者および治療意向に無回答だった者、計38名は集計から除外した。

まとめ

① 飲酒運転の背景にある飲酒問題

飲酒運転による飲酒取消受講者には、アルコール使用障害を含む飲酒上の問題を有する者が多く、処分後もリスクのある飲酒を続ける者が少なくない。

② 医療・支援につながらない現状

一方で、医療や支援につながっている者は限られており、飲酒問題への介入につなげる仕組みが課題である。

③ 再発防止に向けた支援の必要性

飲酒運転の背景にあるアルコール健康障害を早期に発見し、適切な医療・相談支援につなげる取組が重要である。